

## 〈報告〉

## 大学生競技者のキャリア・デザインに関する研究

## —キャリア・アンカー概念の観点から—

飯田 玲依\*・中島 宣行\*

## A Study on The Career Design of university Athletes

## —From The Career Anchors Point of View—

Rei IIDA\* and Nobuyuki NAKAJIMA\*

## 1. 目 的

本研究の目的は、大学生競技者のキャリア・アンカーを明らかにすることである。これより、大学生競技者の選手育成に活用しうる知見を見出すことが可能であると考えられる。

## 2. 方 法

本研究は、Schein<sup>3)4)</sup>の研究枠組みに依拠し、質問紙調査とインタビュー調査を実施した。

## 2.1. 質問紙調査

対象者：大学生競技者259名 (19.8±0.79歳)

調査期間：2008年4月から6月

質問紙の構成：キャリア指向質問票<sup>3)</sup>

大学卒業後の競技継続意欲

競技引退後の夢や目標

## 2.2. インタビュー調査

対象者：大学生競技者2名

社会人選手，プロ選手各1名

調査期間：2008年4月から6月

内容：キャリア・アンカー・インタビュー<sup>3)</sup>に準じた，60分から120分の半構造化インタビュー

## 3. 結果及び考察

## (1) 大学生競技者のキャリア・アンカー

キャリア・アンカーを1つに特定できている大学生競技者は全体の68.7%であった。そのうち、「奉仕・社会貢献(37.1%)」と「純粋な挑戦(20.7%)」の得点が最も高い大学生競技者が，全体の57.1%を占めることが示された。

この結果から，大学生競技者に対して人間関係を重視したチーム作りや，勝利や記録の更新に重点を置くコーチングが有効であると考えられる。また，インタビュー調査の結果から補完すると，大学生競技者にとっての「奉仕・社会貢献」には「やっぱり勝ち負け，どれだけ貢献できるか」というチームへの貢献に加えて，「自分のためであるけど，その人(支えてくれる人)のために」，「親に活躍している姿を見せたい」という，支え続けてくれる人への恩返しという2つの側面が存在することが明らかになった。

## (2) 競技継続意欲とキャリア・アンカー

大学卒業後も競技を継続したいと考えている「継続群(N=77)」と継続しないと考えている「非継続群(N=132)」のキャリア・アンカー得点を比較した結果を表1にまとめた。これによると，「奉仕・社会貢献」を除く7つのキャリア・アンカーにおいて，継続群の方が非継続群に比べて高い得点を示した。両群の得点差の優位性をt検定により調べた結果，「全般管理コンピタンス」(p<.001)，「純粋な挑戦」(p<.001)，「起業家的創造性」(p<.05)において有意差が認められた。

\* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科  
Graduate School of Health and Sports Science,  
Juntendo University

表1 競技継続意欲とキャリア・アンカー

	競技継続 意欲あり (n=77)	競技継続 意欲なし (n=132)	t 値
専門・職能別コンピタンス	18.7 (3.32)	17.8 (3.28)	1.73
全般管理コンピタンス	15.4 (3.79)	13.3 (3.55)	4.00***
自律・独立	17.0 (3.43)	16.4 (3.79)	1.19
保障・安定	17.1 (3.23)	16.8 (3.60)	0.45
起業家的創造性	17.6 (3.40)	16.5 (4.43)	2.00*
奉仕・社会貢献	19.8 (4.05)	20.0 (3.83)	0.50
純粋な挑戦	20.5 (3.83)	18.5 (3.80)	3.65***
生活様式	18.5 (3.68)	17.7 (3.68)	1.49

数値は平均値, ( )内は標準偏差, \*\*\* p<.001,  
\* p<.05

インタビューの中で、継続群の大学生競技者は「まだできるんじゃないかなって思うんですけど」と大学卒業後の競技継続意欲を示したのに対して、非継続群の大学生競技者は、「(プロ野球選手は)もう中学校であきらめた」と話した。このことから、大学卒業後も競技を継続するという選択そのものが「純粋な挑戦」であることが伺える。

### (3) 明確な夢(目標)とキャリア・アンカー

競技引退後の夢(目標)が明確な「明確群(N=149)」と明確ではない「非明確群(N=58)」のキャリア・アンカー得点を比較した結果を表2にまとめた。これによると全てのキャリア・アンカーにおいて、明確群の方が非明確群に比べて高い得点を示した。両群の得点差の有意性をt検定により調べた結果、「全般管理コンピタンス」(p<.001)、「起業家的創造性」(p<.001)において有意差が認められた。

目標が明確である人はキャリア選択満足度が高いことから、「全般管理コンピタンス」に価値を置く大学生競技者は、高い満足感を得られるキャリア選択を行う可能性が示唆された。また、スポーツ選手が現役中から競技引退後のキャリアについて考えることは、不安を取り除き、パフォーマンスの発揮に影響を及ぼす<sup>2)</sup>といわれていることから、競技引退後の夢を明確にデザインすることは重要であると考えられる。そこで、大学生競技者が責任のある立場に立ってリーダーシップを発揮するコーチングの実施により、競技引退後の夢を明確にデザインすることを助け、スムーズなトランジション(節目)

表2 明確な夢(目標)とキャリア・アンカー

	明確な夢 (目標)あり (n=149)	明確な夢 (目標)なし (n=58)	t 値
専門・職能別コンピタンス	18.5 (3.40)	17.8 (3.24)	1.27
全般管理コンピタンス	15.0 (3.56)	13.0 (3.72)	3.67***
自律・独立	17.1 (3.53)	16.0 (3.90)	1.86
保障・安定	17.0 (3.25)	16.6 (3.88)	0.64
起業家的創造性	18.1 (4.08)	15.0 (3.58)	5.07***
奉仕・社会貢献	20.0 (3.87)	19.2 (3.29)	1.39
純粋な挑戦	19.4 (3.78)	19.0 (3.50)	0.74
生活様式	18.1 (3.84)	17.9 (3.49)	0.46

数値は平均値, ( )内は標準偏差, \*\*\* p<.001

の移行が行える可能性が示唆されたといえる。

## 4. 結 論

1. 大学生競技者は「奉仕・社会貢献」ならびに「純粋な挑戦」のキャリア・アンカーに価値を置きながら競技を継続している。
2. 大学卒業後、競技を継続したいと考える継続群の大学生競技者は、非継続群に比べて「全般管理コンピタンス」、「起業家的創造性」、「純粋な挑戦」の得点が有意に高い。
3. 競技引退後の夢(目標)を明確にデザインしている明確群の大学生競技者は、非明確群に比べて「全般管理コンピタンス」、「起業家的創造性」の得点が有意に高い。

(当論文は、平成20年度順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科の修士論文を基に作成されたものである)

## 参考文献

- 1) 益田 勉: キャリア選択行動に対するキャリア志向性の影響, 経営行動科学, 16, (2), 17-129, (2002)
- 2) 水野基樹, 遠藤俊郎, 山田泰行: 雇用形態がセカンドキャリア意識に及ぼす影響—男子Vリーガーへの実証研究の結果から—, 日本スポーツ心理学会第32回大会研究発表抄録集, 168-169, (2005)
- 3) Schein, E. H.: CAREER ANCHORS. 金井壽宏訳: キャリア・アンカー, 初版第10刷, 白桃書房: 東京(2000)
- 4) Schein, E. H.: Career dynamics—Matching individual and organizational needs—. 二村敏子, 三善勝代訳.: キャリア・ダイナミクス. 第12刷, 白桃書房: 東京(2005)

(平成21年3月31日 受付)  
(平成21年3月31日 受理)